

願成寺報

平成二十九年三月十日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎〇五三二・五二・九六〇一

■ 春季彼岸・永代経のご案内

今このままを慶ぶことが 仏様への報恩です
そのままの慶びを ご一緒に 見つめ直しましょう

○餅つき・草取り会

恒例になりました。
つき立てのお餅をオヤツにします。
だんだん仲間が増えてきました。
楽しいです。

是非、ご参加下さい。



三月 十八日(土) 午後一時 餅つき・草取り会

十九日(日) 午後一時半 法要のみ

二十日(祝) 午前十時 法要・落語、法話
成田屋紫蝶 師、住職

正午 お斎(昼食)

午後一時 法要・落語、法話
成田屋紫蝶 師、住職

救いのパラドックス

「救われたい」と願い、もがいている間、その人は救われない。
救いについて忘れた時、その人は救われているのだと思います。
仏教の旗印とされる『四法印』を次のように読み解きます。

- ・ 諸行無常 理想の世界を描いても得難く得ても留まらない
- ・ 一切皆苦 どの様な理想でもそれを求めれば苦に堕ちる
- ・ 諸法無我 それを苦とした私に実体はなく幻想である
- ・ 涅槃寂靜 私が幻想であれば私の理想・私の苦も幻想である

幻想は「私」に拘る自意識が創り出すのであって、
世界や、世界の一部としての私が幻想なのではありません。

大乘仏教・特に浄土教では、世界も、その部分としての私も、
「仏の願いと力用(はたらき)で満たされている」とされます。

私達は「神も仏もない」と嘆きますが、
本当は「救われるべき私が多かった」のです。

拘るべき私がないとして、どのように生きれば良いのでしょうか？
目の前に訪れている課題について、懸命に取り組む他ありません。
結果を仏に任せ、無我夢中の姿を「慶喜」と云うのだと思います。

若不生者ノチカイユエ 信楽マコトニトキイタリ

一念慶喜スルヒトハ 往生カナラズサマリヌ

《讚阿弥陀仏偈和讃・親鸞聖人》



成田屋紫蝶 師

(なりたや しちょう)

豊橋天狗連の大御所

4年目のご出演です
とても楽しいです

今回の演目

「紙入れ」

「長篠合戦(創作)」

「らくだ」

「ええじゃないか

顛末記(創作)」

皆様 大入りのほど

宜しくお願ひ

申し上げます

● 祝 辞

～ ある高校の卒業式にて ～

皆さん、この3年間はどうでしたか？ 楽しいこともあったでしょうが、「どう成りたいんだ」と先生や保護者から、時には友人からも迫られて、追い立てられて、けれど本当に成りたいものなんて解らず、苦しい3年間だったかも知れません。まだ迷っている人もあるでしょう。でも大丈夫、私は高校時代に成りたかったものに、全く成れていませんが、こんな風に、案外楽しく過ごしています。どう成りたいかは勿論重要ですが、「どう成つても大丈夫」という視点も、忘れてはなりません。

先生方、迷い多く、難しい年頃の子供たちを、根気よく、親身に指導いただき、深く御礼申し上げます。

保護者の皆様、おめでとう御座います。高校の卒業は、子供達の巣立ちを意味し、私達も、保護者を卒業する時が来たようです。このけじめの良き日を、「一緒に慶びたいと思います。」

さて皆さん、「幸福のパラドックス」という理論をご存知ですか？ 例えば、幸福を「悩みのない状態」と定義します。幸福になるには、悩みを減らす必要があり、どうしたら減るか悩みます。すると、悩みが一つ増えて、幸福から一步退きました。

「先に幸福の形を描いて、それを守ったり追い求めた場合、逆に不幸になってしまふ」というのが、このパラドックスです。

「思い通りに生きる事が幸福だ」と定義してみましよう。この場合、絶対にはいけない事が2つあります。それは、結婚と子育てです。結婚生活や子育てが、全く思い通りでないことは、皆さんもよくご存じだと思います。家庭生活は「こんな苦し

やなかつた」ということの連続で、全く思い通りではありません。けれど、不幸かというところ、そうでもありません。

例えば、全く言うことを聞かない高校生でも、起きている時はコノヤローと思つても、無防備な寝顔は可愛いものです。ニキビ顔でも、髭が生えていても、頭を撫でると充実感があります。であれば、幸福だったと言えませんか？

幸福とは、先に形を思い描いて、求めるものではなく、後から「幸福であつた」と気がつくものだと教えられる。だから、幸福である為には、一生懸命に目の前にある課題に打ち込むより他にないのです。一生懸命な姿は、結果の成否に関わらず、それだけで大きな意味を持っています。

昔、ある幼稚園で、小さな男の子が、お兄ちゃん達に混ざつてキックボードで遊んでいました。坂道をスキーのように滑り降りるのですが、転んでも傷だらけになつても、それでも嬉々として、くる日も来る日も懸命に遊んでいました。

その当時、私は父が亡くなつたり、仕事で上手くいかなくて、心が傷だらけでしたが、その子の姿に、秘かに、勇気づけられました。一生懸命な姿は、仲間の心に何かを伝え、響くと信じます。

大人に成つてくると、沢山の失敗や傷ついた経験が災いして、直面している課題に対して、臆病になつたり、誤魔化したりするようになります。しかし、自分を守るように誤魔化せば誤魔化すほど、心に霧が立ち込めて、余計に苦しく、身動きがとれなくなつてしまいます。

臆病に、ただ迷っているだけでは埒があきません。意を決して、自分を守ることを止めて、直面する

課題に挑んで下さい。大丈夫です、独りで荷うのはありません。鬩いの狼煙を上げれば、必ず、仲間が見つかります。本当の友情は鬩いの中ではなく育まれないのでしょうか。育まれた友情は幸福感に直結すると思います。

友人から聞いた話を紹介します。彼は子供が大嫌いでした。だから、子育ては絶対にしないと決めていたそうです。ところが出来てしまいました。その子が生まれるまでの間、親になるということがどういう事か、良い親になれるのかどうか、必死で考えましたが、答えは出ませんでした。そしてその日はやつて来ました。その子の出産は一晩かかる難産でした。彼は、痛さに泣きわめく妻の傍らで、こんな風に祈つていたそうです。「不自由な所があつてもよい、悪い所があつてもよい、とにかく生まれ来てくれ。そして、生まれたら、出来ることを一緒に捜して、一緒に、一生懸命やつて行こう」

最近、彼はこんなことを言っています。「この子が生まれてくれて良かった。この子のおかげで親になれた。親として恥ずかしくない様に頑張れた。不十分だったかも知れないが、少しはマシな人間になれた気がする」

人生には、その前で立ち尽くす他ない、運命としか思えないような出来事が時々起こります。けれど、その運命に対してどのような態度をとるか自由です。逃げることなく、全力で、その運命に立ち向かつてけば、きっと人生は充実し、幸福なものとなるでしょう。

皆さんはどんな物語を紡ぎ、どんな人間になるでしょう。楽しみにしています。卒業おめでとう。

創作・（妙好人）お軽の法悦

風邪をこじらせて生死をさまよう高熱の寢床の中で、お軽は沢山の言葉にうなされていました。

気位の高かった娘時代「お軽の所へは婿養子に行つてはいけない」夫の浮気について「あのお軽じゃ、浮気するのはあたりまえ」救いを求めた寺では「浮気はあんたの為に、かえつて良かった」雨風に負けず、すぎるように聞法を重ねて覚えた経言の数々。

自分は悪くないと思いたかった。

気高く誠実に生きたと証明してもらいたかった。

けれども、どうでもよくなりました。

思い詰めて玄界灘の岸に立った日のことを思い出していました。

何も変わってない、悪夢でしかない。

本当のことなんて何処にもない：

ふと、柔らかい手がお軽の頬にふれました「お母ちゃん」

額のタオルを替える夫の声が聞こえます。

「苦勞ばかりで、すまんのお」

涙があふれて止まらなくなりました。

なにごとくも昔になりて今ははや 南無阿弥陀仏を称うばかりに

おのが分別さつぱりやめて 弥陀の思案にまかしやんせ

気狂い婆じゃといわれし我も やがて浄土の花嫁に

重荷せおうて 山坂すれど ご恩おもえば 苦にならず

ああ嬉し御法の風に身をまかせ いつも弥生の心地こそすれ

鮎は瀬に住む 小鳥は森に わたしや六字のうちにすむ

〔妙好人の言葉〕梯實圖著、法蔵館より

その後、お軽は快癒して夫と邂逅し、六人の子を養いました。

法悦の歌を残して、五十六歳で往生したと言うことです。

〔妙好人のこぼ〕本願寺出版社、他より創作

「花まつり」ご案内

灌仏法要

4月11日(火)午後1:30

総合華道展・茶会

4月10日(月)午後1:00～4:00

4月11日(火)午前10:00～4:00

※呈茶券・300円(当日販売もあります)

仏教講演会

4月11日(火)午後2:00

講師：渡辺哲雄氏

講題「お釈迦様との出会い
～癌を病んで考えたこと～」

入場無料

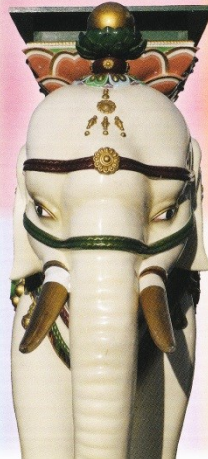
会場豊橋別院
豊橋市花園町8

花園駐車場ビルを
ご利用ください。

お問合せ
080-7803-4176
豊橋仏教会
仏教会総務

花まつり

4月
10日(月)
11日(火)



主催

豊橋仏教会

豊橋仏教奉賛会

恒例の豊橋仏教会・豊橋仏教奉賛会主催の「花まつり」が

右記にて勤修されます。

当山住職も役員として参加しています。

仏教講演会は **渡辺哲雄先生** が講師です。

昨年の当山・報恩講でお話いただいた先生です。

ご自身の癌の経験をどんな風に話されるのか？

とても楽しみです。

お釈迦様の誕生に因んだ行事です。

ご一緒にお慶び致しますよう、ご参加下さい。

* 豊橋仏教会は宗派を越えて

市内一八四の寺院が参加する団体です



行事予定 平成二十九年春以降

四月の月例会の開催日を変更しました、ご注意ください。

八月十五日（火）お盆・歓喜絵（住職）

法要・法話で亡き人を偲びます
軽食・花火あり
午後六時

九月二十四日（日・祝）秋季彼岸・永代経法会（戸田恵信師）

お馴染みの先生の情熱的な法話です
お非時（昼食）あり
午前十時

十一月三日（金・祝）本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します
午前七時ごろ集合

十二月二日（土）報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です
お非時（昼食）あり
二日 午後一時半から
三日 午前十時から

五月～十二月 月例会

毎月一日

午後二時～ 時間変更の場合があります、
寺までご確認ください

四月は二日に変更します

ご迷惑をお掛けします

九月以降には、
念珠製作・絵手紙・他も
企画しようと思っています



法会では
お非時も
楽しみの一つです
皆で頑張ってます

↓ 後記 ↓

○ 鬼の家では 鬼は内 福も内

テレビのコマーシャルでは愛嬌のある鬼が活躍しています。妖怪も妖怪ウオッチで可愛らしくなっています。怖いものがない、畏れを忘れた世の中で良いのか？と少し思います。

自分を鬼だと考えてみました。すると嫌われて当たり前。不幸が当たり前なので、おおらかに自由になれます。鬼も、福も、ようこそ、ようこそ。

○ 善人の家・悪人の家

お説教でときどき語られる説話です。

妻の雑巾がけのバケツを、夫が不注意でヒックリ返した。

「失敗した」と詫びながら片づけ始める夫に、

「私が廊下にバケツを置いたから：」妻も謝り片づける。

「僕も手伝っておれば大事なかったのに：」姑が手を貸す。

皆が自分の非を認めて詫びるのが悪人の家。

逆に、それぞれが自分の正義を主張し、争いが絶えず、

バケツの水がこぼれ放しになるのが善人の家。

○ 善悪分別を捨てる態度

こぼれた水に着目すれば、悪人捜しや謝罪は二番目で、水が廊下や畳に浸みこむ前に、片づけなければなりません。

善悪など、余計な分別に拘って、もっと大切なことを忘れ、出来ることのあるのに、やらない愚かさと思われれます。

自分の分別を捨てた場合、何を指針に生活するのでしょうか？

残念ですが、私にはそこがまだハッキリしていません

親鸞聖人が大切にされた言葉を記すに留めます。

『前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え』

（教行証文類 所引『安楽集』道綽禪師）